

多久聖廟の開運パワーを知ろう！

■この中でも一番多いのが龍。聖廟には、向拝部分から神壇にある聖龕（孔子像を収める八角形の厨子）まで100近くの龍の装飾があり、廟内で孔子を守護しているのも龍です。高貴な気質を持つ龍は、富貴吉祥を象徴することから、財を招いて富貴を呼び込む力を持っている計り知れないパワーがあると伝えられる。また、風雲をもたらし、雨を降らせる神通力を持つ霊獣で、中国では、治水や水を司り、天子のシンボルとなった。多久家文書によると、聖廟で雨乞い祈願が度々行われており、効果てき面だったらしい。長雨の時は晴天祈願も行われている。

象（ぞう）

霊獣のひとつで、仏教では釈迦誕生にちなむ話や普賢菩薩を乗せている動物として重宝がられている。インドでは、神の使いとされる。

龍（りゅう）

万能の神のごとく、神格化され、めでたい兆しとなる最高の動物として、人々に敬愛される。十二支各々に動物が当てはめられた時、唯一採用された中国の伝説上の動物。

※廟内にも対で存在する装飾があり、この龍と象も一對の阿吽形。阿は口を開いて最初に出す音、吽は口を閉じて出す最後の音で、あらゆる現象の始めと終わりを表し、阿吽の呼吸などとも言う。沖縄のシーサーは、口を開いた方が福を招き、片方があらゆる災難を家に入れないと言われ、これも除災招福の形。

■本堂壁には、^{あうん}麒麟の彫物がありますが、麒麟は中国では聖人が出現して良い政治が行われる時の印とされる瑞獣のひとつで、想像上の動物。駆ける姿は喜びの象徴で、慶賀をもたらす平和のシンボル。

「鎮」の作用が強く、あらゆる災いを消し、安定させる。春と秋の釈菜の時は、仰高門をくぐった右側に、麒麟がみなさんを出迎えているのをご存知でしたか。



宝珠（ほうじゅ）

願いを叶える不思議な力が備わっているとされ、尖った先端から願いを宇宙に放出したり、逆に宇宙のエネルギーを呼び込むとも言われる。



竹（たけ）

仙人の住む家に生える植物で、鳳凰が実を食べるといふ、古来から神が宿る瑞祥植物として、大切にされてきた。正月飾りや地鎮祭などで邪気を払う斎竹（いみだけ）にしたり、七夕などにも使われるようになった。



■栗（くり）
貴人が食するめでたい果物のひとつ。



鯪（しゃち）

頭はトラに似て、背にとげを持ち、背をそらして尾の上に跳ね上げる想像上の魚。主に屋根に使われ、鬼瓦同様守り神とされる。



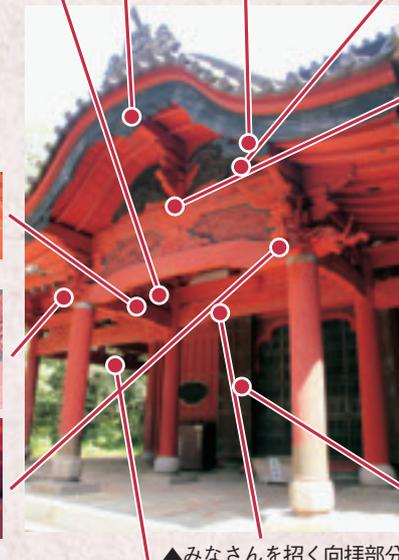
鳳凰（ほうおう）

天帝の使いとして羽ばたく瑞獣のひとつ。羽を持った360種の鳥類の長とされ、鳳は雄、凰は雌を指し、幸せを呼ぶ鳥。2004年から発行されている1万円札にも描かれる。



饜飶（とうてつ）

中国神話の怪物で、何でも食べることから、食に困らないお守りや魔除けに使われ人間の悪い心も食べてくれると言われる。



▲みなさんを招く向拝部分

柏樹（かしわじゅ）

柏樹は新芽が出るまで、葉を落とさないことから、家が絶えないとして尊ばれ、端午の節句の柏餅も厄払いの力があると信じられている。



如意頭文（にょいとうもん）

孫悟空の如意棒でおなじみ。意のままに思う通りにと言う意味で「万事意の如く」を願う。形は、靈芝や瑞雲を元に吉祥をかたどっている。

鯉（こい）と波

滝を登って龍になると言われるほど縁起のよい魚で、「登竜門」の語源。中国の伝説から立身出世の象徴。この虹梁に唯一施され、ここが登竜門を意味する。

多久独特の発想「珍しい孔子廟」

創建した多久茂文の「多久を四霊（麒麟・鳳凰・龍・亀）が集まる理想郷に」の想いが込められた聖廟の吉祥文様は、中国古典にみられる孔子にまつわる数々の逸話をもとに構成。北に山を負い、南に門を構え、門の前に池があるのも中国の故事に倣ったもの。他の孔子廟には見られない多久独特の発想による廟の構造で、最も中国の様式を取り入れた珍しい和折衷の建物です。

このような聖廟にまつわる多くは、市の郷土資料館で知ることができます。また、第2・4土曜日の午前中は、ジュニアボランティアガイドが聖廟を案内してくれます。過去を学ぶと壮大なロマンと結集力が伺え、ここにしかない宝は、知れば知るほど、新たな発見につながり、心の財産が増えるでしょう。まずは、市報を片手に、参拝に出掛け、めでたい吉祥文様を拝見しませんか。